



フランドン農学校の豚

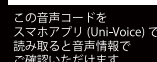
～注文の多いオマケ付き～

[演出] 西沢栄治



生き物は生きているもののしか食べられない。

君津市・木更津市・市原市・鴨川市・富津市・袖ヶ浦市
南房総市・大多喜町・鋸南町 各教育委員会



児童から大人まで身近にとらえやすい「食」がテーマ

宮沢賢治の2つの童話『フランドン農学校の豚』と『注文の多い料理店』を原作にした、「いのち」と「食」をつなぐ心の栄養たっぷりの舞台です。
「何のために死ぬの？」
食べられちゃうぶたの気持ち…。
あなたは？
思わず口ずさんでしまうリズムカルな歌と共に毎日の食卓に“命”を吹き込みます。

<アンケートより>

【こどもの感想】

- ・「ぶたはしんじやったけど、みんなぶたにくをおいしくたべられてよかったです」(7才)
- ・「ちゅうもんの多いよりてんもくつついて、とてもおもしろかったです」(9才)
- ・「ぶたのきもちがよくわかった。おもしろかった。」
いろいろな人がぶたになったところがよかった(9才)
- ・「ふだん何も考えずに食べているものは、元々命だったんだと思いました」(10才)
- ・「『何のために死ぬの?』というところが印象に残っていますし、
生きている者はみんな必死に『生きる』ということを求めているなと思いました」
(中学2年生)

【おとなの感想】

- ・「孫たちに食物の大切さを知ってもらう事ができたと思う」
- ・「素敵で大事なお芝居でした。『いただきます』という
食べ物に敬意をもった挨拶を大切にしていきたいと思いました」
- ・「大人だけで観ましたが楽しくそして考えさせるお芝居でした。
宮沢賢治の作品の言葉がそのまま使われているのがとても良かったです」
- ・「お芝居って観た後の心の変化だと思う。この芝居を観るのと観ないのではとんでもない違いがある」
- ・「児童が給食を残す量が減りました」(学校の先生より)

宮沢賢治

(1896-1933) 明治29年、岩手県花巻生れ。
盛岡高等農林学校卒。富商の長男。日蓮宗徒。
1921(大正10)年から5年間、花巻農学校教諭。
中学時代からの山野跋涉が、彼の文学の礎となった。
教え子との交流を通じ岩手県農民の現実を知り、
羅須地人協会を設立、農業技術指導、
レコードコンサートの開催など、
農民の生活向上をめざし粉骨砕身するが、
理想かなわぬまま過労で肺結核が悪化、
最後の5年は病床で、作品の創作や改稿を行った。
生前刊行されたのは、詩集『春と修羅』
童話集『注文の多い料理店』(1924)のみ。

<企画制作>

NPO法人劇場創造ネットワーク／座・高円寺

座 高円寺
ZA-KOENJI PUBLIC THEATRE

<あらすじ>

舞台はフランドン王国にある農学校。
飼われている豚はなんでも食べる
食いしんぼう。生徒たちから、
「糞や水から、肉や脂肪をつくる
不思議な力を持っている生きもの」、
なんていわれて自慢げだ。
しかしある日、国王から
「家畜をころそうというものは、
その家畜から死亡承諾書を受取ること」
という法律が発令されて…。

【出演】

荒井志郎 塚本淳也
大野朱美 小玉雄大
和田裕太 伊島 青
君津市出身

【振付・ステージング】
神在ひろみ

【美術】長田佳代子

【音楽】園田容子

【照明】横原由祐

【音響】島 猛

【衣裳】仲村祐妃子

【舞台監督】荒牧大道

【舞台写真】梁丞佑